

平安時代の文学を楽しもう

—「光る君へ」の世界—

開講計画

全3回／各90分

回	日付	曜日	10:50~12:20
1	5/21	水	道綱母『蜻蛉日記』 冒頭にある兼家の求婚から結婚後の苦悩、有名な「なげきつつ」歌の贈答場面を取り上げます。
2	6/18	水	清少納言『枕草子』 中宮定子サロンの理想性や作者の美的感覚はどのように表現されているでしょうか。代表的な類聚章段と日記回想章段を取り上げます。
3	7/16	水	紫式部『紫式部日記』 作品の全体像を象徴する叙情的な冒頭場面、紫式部が同僚女房について書いた女房批判を取り上げます。

受講料 4,000円

定員 30名

文学作品から読む平安時代の文化と歴史

平安時代は、女性の手による文学作品が数多く成立した稀有な時代です。NHK大河ドラマ「光る君へ」では、その成立過程が描かれていました。本講座では、そのうち代表的な三つの作品を紹介します。

まず道綱母の『蜻蛉日記』は、夫・兼家との結婚生活の苦悩をつづったもので、女性による仮名日記の嚆矢となりました。清少納言の『枕草子』には、定子サロンのきらびやかな宮廷生活が描かれ、『紫式部日記』からは、紫式部の作家としての感性や女房としてのあるべき姿が窺われます。以上、平安時代の文学を楽しみながら、現代の私たちにも通じる思いを読み取ってきたいと思います。

講師

教育学部 准教授

たかはし まおり

高橋 麻織

専門は平安時代の文学作品における歴史性。著書に『源氏物語の政治学—史実・准抛・歴史物語—』(笠間書院、2016年) 第19回紫式部学術賞受賞、第14回全国大学国語国文学会賞受賞

受講上の注意、受講日に持参するもの等

毎回資料プリントを配付します。筆記用具を持参してください。